

## 2016年度「研究者の横顔」 大木 理恵子先生

### 1. 研究者になろうとしたきっかけ

分子生物学に魅了されたため。

### 2. 助成研究の内容紹介

希少がんである神経内分泌腫瘍の本態解明と新しい治療法・診断法開発を目指した研究です。

### 3. 2の将来に繋がる結果予想・目標

希少がんは研究開発が進みにくく、適切な治療法・診断法がない場合が多いです。私たちの研究により、希少がんの患者さんたちに役立つ成果を得たいと考えています。

### 4. 全国のRFL関係者に一言

がんは2-3人に一人がかかる病気ですが、まだまだ未解明なことが多いです。今後がんの本態解明は非常に重要です。がんの基礎研究を今後もサポートしていただきたいです。